

6月25日・30日 地域の方々と学習会 ～歴史と文化の継承～

【東濃森林管理署】

うらきそ

6月25日、30日、東濃森林管理署において、裏木曾地域の森林・林業に係る歴史と文化について、地域の方々とともに学習会を行いました。

いせじんぐうしきねんせんぐう

この地域では昨年6月に行われた第63回伊勢神宮式年遷宮に係る裏木曾御用材伐採式がきっかけとなり、森林・林業に係る関心が高まっていることから、東濃森林管理署職員として、この地域の森林・林業について学ぶ機会として企画したところ、地元の方々からも、「ぜひ、参加したい。」との声をいただいたことから、一緒に学習会を開催することとなりました。



伊勢神宮との関わりについて学ぶ参加者

第1回目は、この地域の歴史と木材搬出技術の推移について学びました。中部森林管理局には「木曾式伐木運材図会」という江戸時代後期頃の木材伐倒・搬出技術を描いた絵巻物があることはよく知られていますが、東濃森林管理署にも「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」という古来の木材搬出技術を描いたものが残されていることから、これらを用いてこの地域ではどのような木材搬出が行われてきたのか、また、ここから搬出された木材は全国のどのような木造建築物で使われてきたのかを学びました。



歴史と文化についての説明に耳を傾ける参加者

第2回目は、特に歴史的な繋がりが深い、この地域と伊勢神宮との関りについて、この地域がかつて神宮備林と呼ばれた経緯や御杣山として担ってきた歴史などについて学びました。

今回は特に、昭和5年から14年に神宮備林で遷宮用材として調査された「大樹台帳（直径2尺以上のヒノキを1本1本調べた台帳）」を実際に見ることができる場を設けるなど、歴史的資料も手にして先人の凄さを感じていただきました。



古い資料を見ながら学ぶ参加者

この学習会には若い方から年配の方まで幅広い年齢層の方々にご参加していただき、この地域の皆さんの裏木曾の森林に対する熱意を感じました。東濃森林管理署では、これからもこうした機会を作り、地元の方々と共に歴史・文化への理解を深めていきます。